

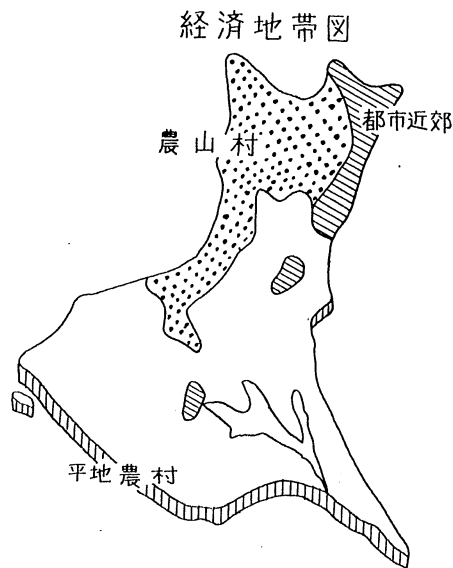
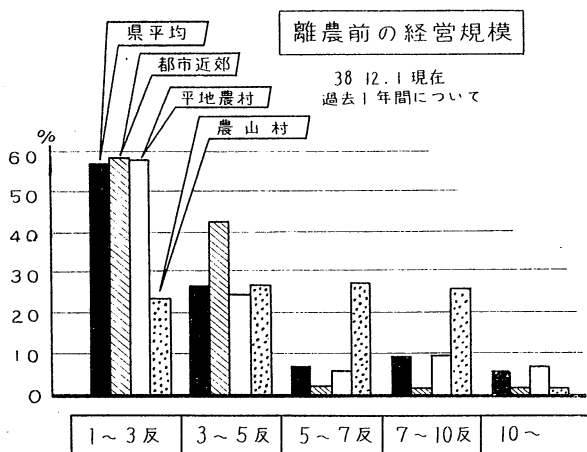
零細農に多い離農

— 動機は兼業専門化と労力不足 —

(昭和38年農業調査結果)

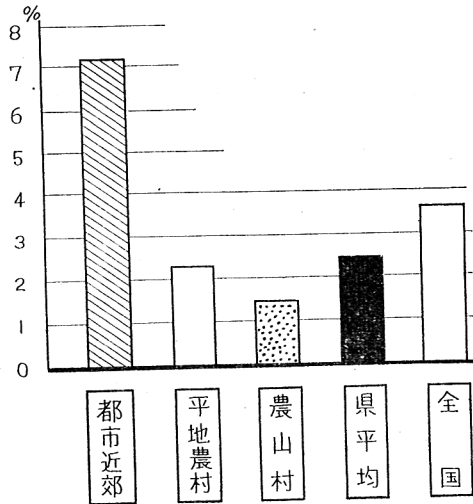
農林省茨城統計調査事務所

- ◇農業の近代化をすすめるためには、色々と考えられておりますが、農家数の減少も一つの要因です。今回は「離農の動き」についてみましょう。
- ◇都市近郊地帯に多い零細農家本県の35年以來、離農家割合は2.4%で、全国都府県の3.6%に比べると、減少テンポはゆるやかです。県内地帯別には、都市近郊地帯は7.2%で、平地農村の3倍以上に達している。これはいうまでもなく、他産業の発展により零細農家の離農が多いためでしょう。
- やめる前の経営規模をみると、1～3反の階層が、60%近くしめていて、他の地帯と比べて特色ある点です。
- ◇離農の動機は、直接動機となつた「兼業のため」が40%近くあり、ついで「労働力不足」を訴えるものが、30%もみられる。
- ◇離農前の専兼業別は、何といつても、兼業が80%も占め、うち「兼業が主」が70%と高率である。これは、第二種農家が、本業である自営兼業のかたはら副業的農業は、食糧事情の好転、労力不足から農業は手足まといになるので、農業に見切りをつけるものが多くなつたためでしょう。
- ◇耕地の行方は、売却が30%、うち、耕地としての売却は22%もある。なお、離農しても貸付けが、33%もあり目立っている。

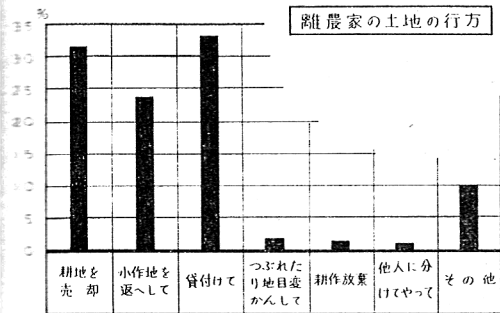


地帯別離農率

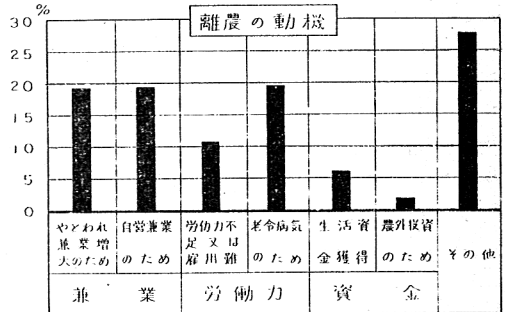
$\frac{35\sim38\text{年離農家数}}{35\text{年の総農家数}} \times 100\%$



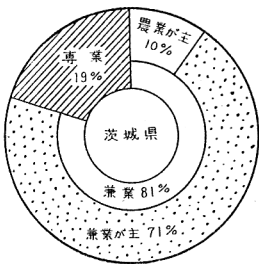
離農家の土地の行方



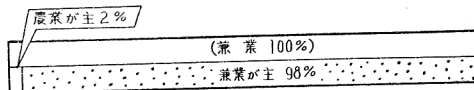
離農の動機



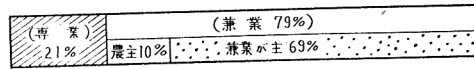
離農前の専兼別



都市近郊



平地農村



農山村

